

Hello! FUJISEI

No.210

喫煙により引き起こされる様々な健康影響により、喫煙者は、余命が短くなると言われています。

厚生労働省の「平成24年 国民栄養の現状」（国民栄養調査結果）による成人喫煙率は20.7%で、前年より上昇しました。男性の喫煙率は34.1%でやや増えており、20歳代から40歳代が増加しています。一方、女性の喫煙率は9.0%で、20歳代から50歳代が12%前後で、それ以降は低い値を示しています。

世界保健機関（WHO）は、昭和45年にたばこ対策に関する初めての世界保健総会決議を行い、平成元年には5月31日を「世界禁煙デー」と定め、喫煙しないことが一般的な社会習慣となることを目指した「たばこ健康に関する活動計画」を開始しました。

厚生労働省においても、平成4年から世界禁煙デーに始まる一週間を「禁煙週間」として定め、各種の施策を講じています。

今年の禁煙週間のテーマは「**オールジャパンで、たばこの煙のない社**

5月31日～6月6日は禁煙週間

オールジャパンで、たばこの煙のない社会を

会を」です。その趣旨は、

『喫煙が健康に与える影響は大きい上、受動喫煙の危険性やニコチンの依存性を踏まえると、喫煙習慣は個人の嗜好にとどまらない健康問題であり、生活習慣病を予防する上で、たばこ対策は重要な課題になっている。』

「健康日本21（第二次）」やがん対策基本計画の目標でもある「未成年者の喫煙をなくす」ためには、喫煙による健康影響を認識させることが重要である。

また、「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」に基づく第2回締約国会議において、「たばこの煙にさらされることからの保護に関するガ

イドライン」が採択され、我が国においても、平成22年2月に、基本的な方向性として、公共の場は原則として全面禁煙であるべき等を記した通知を发出し、平成24年度においては、受動喫煙防止対策の徹底について通知を发出したところである』

たばこを減らすことで命を守ることを目的として、禁煙及び受動喫煙防止の普及啓発を積極的に行い、禁煙大使に任命された安藤美姫さんの写真を使用した啓発用ポスターの掲示や「世界禁煙デー記念イベント」が開催され、無料で参加できる肺年齢のチェックや禁煙相談なども実施されます。

喫煙習慣者の年次推移（性・年齢別）

